

聖母の被昇天の祝日

金 大烈 神父 2008年8月15日(金)

《感動は幸せの種》

こんばんは。今日は一番暑い日でした。皆様も大変だったと思いますが、今晚私達は“聖母の被昇天の祝日”を迎えています。

子供たちが赤ちゃんだった時を思い出して下さい。小さな子供は転んだり、倒れたりすると泣きわめきながら「おかあちゃん!」、「ママ!」と母親の助けを求めます。そして小学校に入り、良い成績が取れた時、その良い結果を真っ先に知らせたいのはやはり母ですよね。私達もマリア様をその様に思っています。子供が転び、血がにじむ自分の膝を見て、その怖さの中で母親に助けを求めるそのイメージが私達には何よりも必要です。そして何かで自分が褒められる時、その姿を誰よりも喜んで下さるこの“お母さん(マリア様)”を考えて下さい。

しかし、私たちの中には自分のお腹を痛めて産んでくれた母親に否定的な記憶を持っている方もいらっしゃるかも知れません。あらゆる母親が皆立派ではないのです。何故私の母はこの様な姿を見せるのかと苦しみ、そしてその母親から受けた幼年期の傷をお持ちの方もいると思います。その方は逆に子供の頃から「この様な母親が一番だ」と理想的に思った、その母親に対してのイメージを持っているのが聖母マリア様だと思って下さい。そうすればこの母であるマリア様が、私達にとってどのような意味であるかすぐに感じられると思います。

「マリア様は神様ですか?」と聞かれたら、「いいえ、神様ではありません。しかし神様のお母さんです」と答えて下さい。私達はマリア様を神様として拝んでいるわけではありません。彼女に駆け寄り、自分の恥も痛みも全てを「お母さん、私はどうすればいい?」と自分のありのままをさらけ出せる、そういう存在である“母”です。

イエス様は十字架上で愛する弟子に「これからは、あなたのお母さんです」とおっしゃいました。最後の遺言とし、私達に残した言葉です。その時から私達はマリア様を“お母さん”と呼びます。お母さんという存在はすべての人間にとって故郷ではありませんか。私達は心の一番のふるさとである“完璧な母親”を持っていることにプライドをもちましょう。そして自分の弱さも恥ずかしさも全てをあらわにして、その取り次ぎを願いましょう。この方は“私の母です”“皆様の母です”“私達の母です”この様な心がきちんと身に付けば、今日の祝い日の聖母マリア様に捧げる一番大きい捧げ物になるのではないかと思います。さあ、お母さんの話はここまでにしましょう。

話が変わりますが、人間だけ感じられる幸せがいくつかあります。感動するという言葉があります。“感動する”これは人間だけに与えられた幸せです。感動する為には何が必要ですか? 何によって私達は感動を得るのでしょうか。例えば、自分自身の中に存在する“あるもの”が出せないでいる時、ある人がそれを勇気をもって出させてくれた時に感動します。男性はプライドで生き、女性は感動で生きるとも言われています。もしこの中で自分の奥さんとの関わりがうまくいっていない方がいらしたら、何とか感動させようと頑張ってみて下さい。女性は感動を受けると自分の命をも捧げられる程の力を持っているそうです。

今日、聖母の被昇天の祝日に心を決めてみましょう。私達がお互いに感動を得られるその様な存在になれば、私達は互いに幸せになるのではないのでしょうか。

今日は私が“感動”を受けた何人かを紹介したいと思います。祭壇の十字架の下にご聖櫃となる器があります。私がこの教会に始めて来た時、聖堂に入り、イエス様に挨拶しようとしたのですが、ご聖櫃が見えなくてどちらにお辞儀をするか迷いました。小聖堂にご聖櫃はありました。聖堂に入ったらまずご聖櫃にお辞儀をするのが正しいのですが、それが出来ない事にとっても不満を持っていました。

祈られる “一番中心” にイエス様のご聖体が置かれなければならないのに、何故そうになっていないのか。私は祭壇の後ろにご聖櫃を置きたいという希望を評議会、委員会の中で話し合ってきました。そしてその中で何人かの方が頑張ってくださいました。その一人はルドビコ 相沢 収さん。相沢さんはこの器を焼いてくださいました。そしてその扉にきれいなぶどうや十字架の模様を付けて下さったマリア・テレジア 井上好美さん。本当に有り難うございました。相沢さんはこれを焼き上げる為に何度も失敗をしました。祈りながら祈りの内に作りましたが、もっと自分を清める為にゆるしの秘蹟も受けました。そして更に祈る気持ちで挑戦を続けて出来上がったのです。9ヶ月かかりました。12回目に成功したそうです。“意味” があるでしょう？

今日の第一の朗読、ヨハネの黙示の中、「一人の女が身に太陽をまとい、月を足の下にし、頭には12の星の冠をかぶっていた」とあります。12回。私は本当に感動しました。私達が心を込めてこの位頑張れば出来ないものは無いのだという事を確信しました。本当に素晴らしい物になりました。この場を借りて感謝致します。そして、井上さんも忙しい中、何度も私の元を訪れ、この絵がいいか、あの絵がいいかと試行錯誤を重ねました。そして井上さんのお義母さんも、頑張っているお嫁さんの為に一生懸命祈られました。このお二人が祈られた事を考えても、私達は祈りがあれば何でも出来るという体験でもありました。本当に感謝致します。

そして、ご聖櫃だけではなく、それを置く台も皆様気に入って頂けましたか？ 営繕の係りの方々がその色についても何度も相談しながら決めました。皆で話し合えばこんなに良い物が出来るのだと改めて感じました。感謝致します。

そして、今度は皆様を褒めたいと思います。今、皆様の前に9冊の聖書が捧げられました。この聖書はご存じの様に色々な国の方が心を込めて、自分に与えられた箇所を母国語で書いたものを本にした物です。後でピエタの聖母の前にきれいに陳列しますので、ご自分が書かれた箇所をご覧になって下さい。何か違う気持ちが湧いて来ると思います。この為に頑張ってくださいました方がいらっしゃいました。多分、書写の期日等で地区長にうるさく言ったりしてイヤな顔をされた事もあったでしょう。しかし自分の役目をきちんと果たしてくれました。感謝致します。フランシスカ 藤木美津貴さん。ありがとうございました。

そして聖書を書いた私達の為に拍手をお願いします。多分この聖堂が、太田教会という名が続く限り、この聖書もとこしえに大切に保存され続けて行くでしょう。それを作った一人として私達はこれを誇りに思い、私達の宝物にしてもよいのではないのでしょうか。皆様、本当に感謝致します。

ありがとうございました。